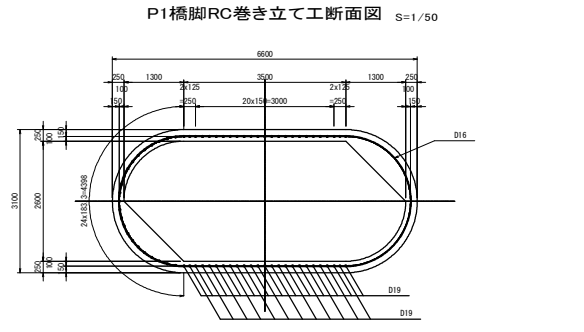
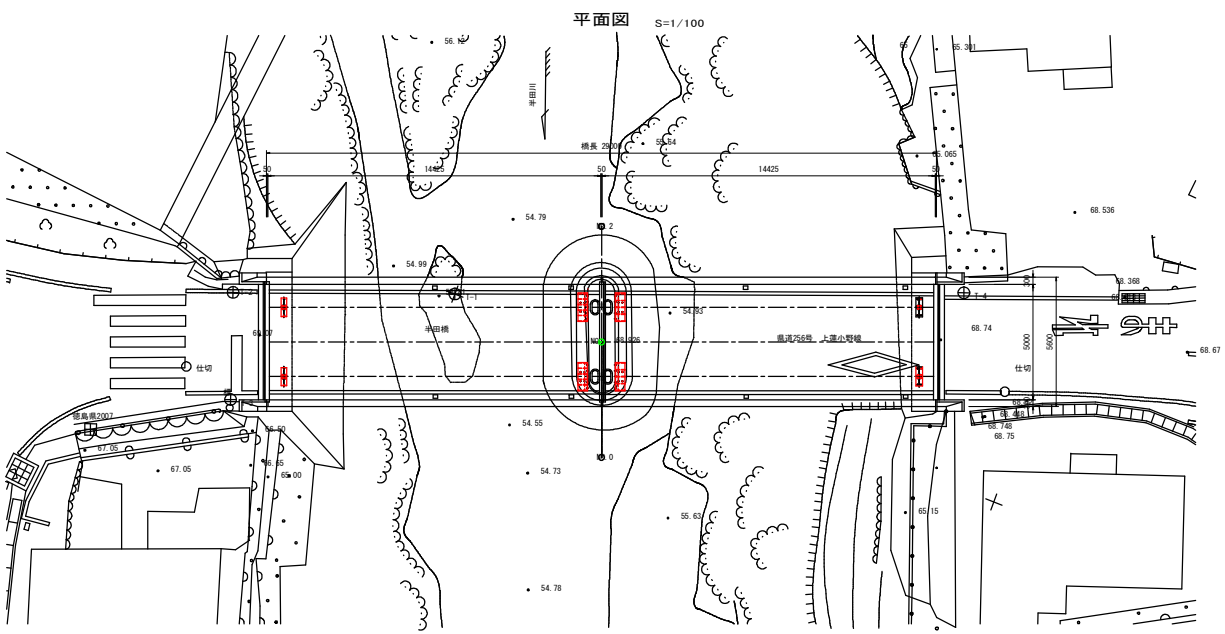
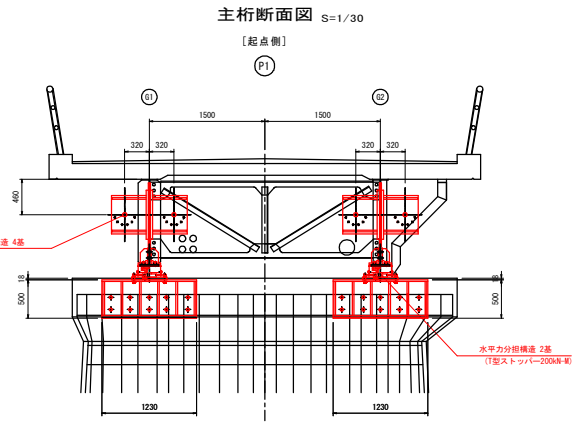
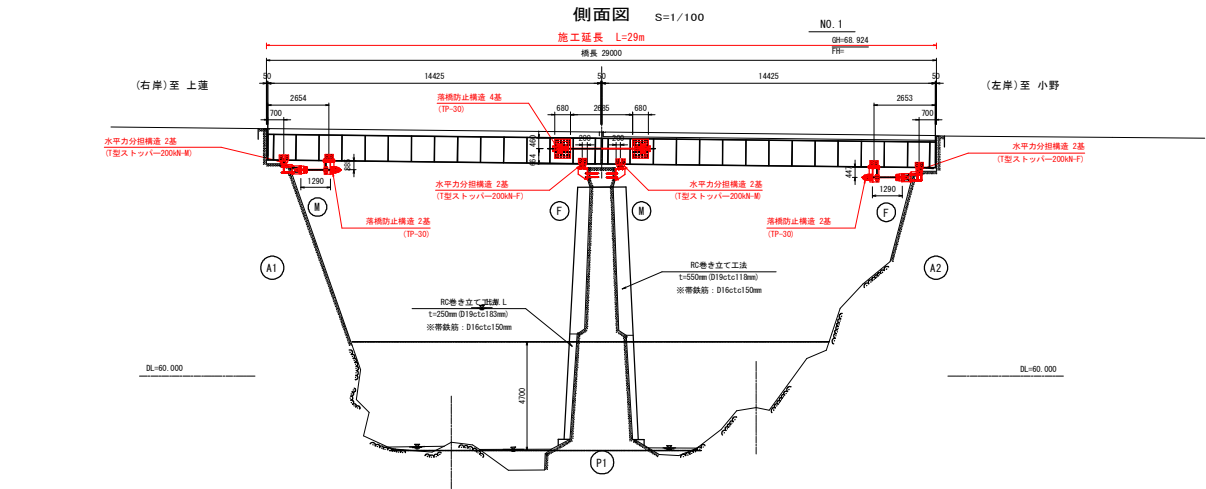


耐震補強一般図



補強工法

部材	工法	細目
主桁	水平力分担構造	T型スタッパー、ブラケット
	滑り防止構造	TP-30、ブラケット、補強板
	巻帯鉄筋工	鋼製ブラケット
橋脚	RC巻き立て工法	t=250mm (550mm)、主筋D19、帯鉄筋D16

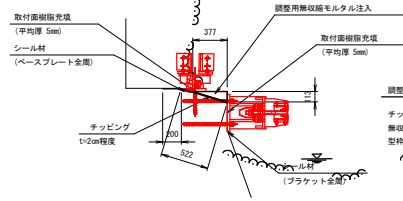
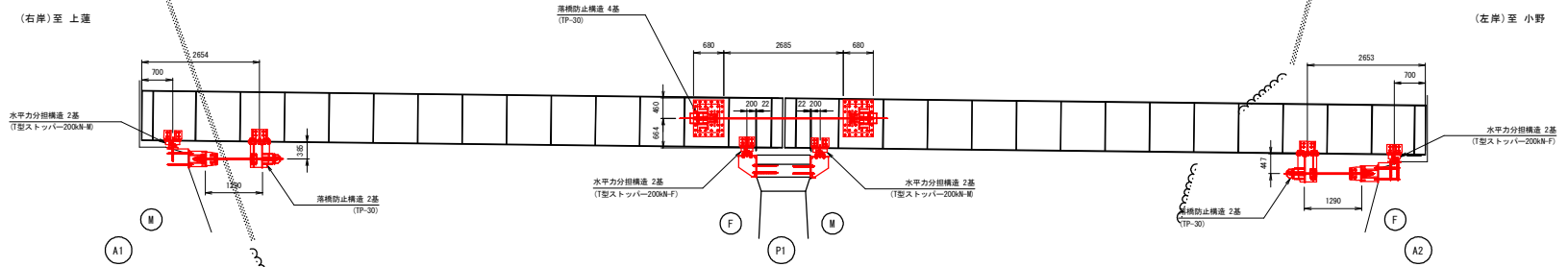
実施設計図面

工事名	陸上 上遊小野橋 (半田橋) つ、半田小野橋 橋脚耐震補強工事		
路線名等	(一) 上遊小野線 (半田橋)		
工事箇所	美馬郡つるぎ町半田字小野地		
図面名	耐震補強一般図		
縮尺	図示	図面番号	1 / 22
会社名			
事業者名	徳島県美馬土木整備事務所		

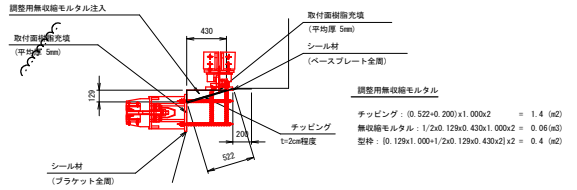
水平力分担構造及び落橋防止構造 配置図

S=1/50

側面図

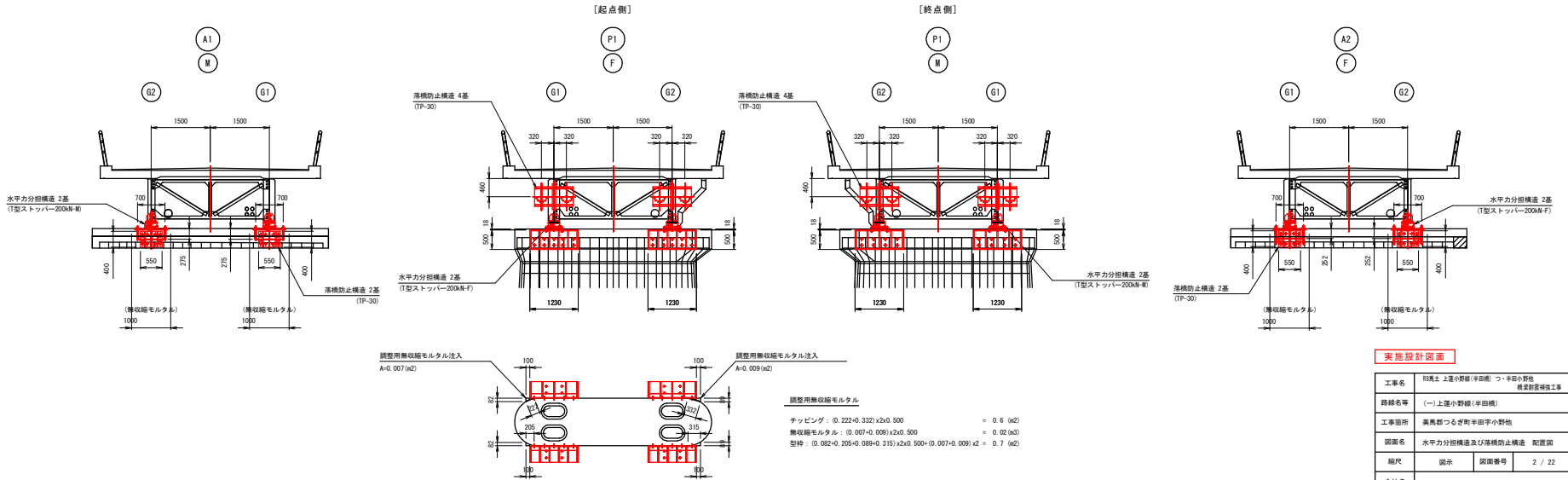


調整用無収縮モルタル
 チッピング: $(0.522 \times 0.200) \times 1.000 \times 2 = 1.4 \text{ (m}^2\text{)}$
 無収縮モルタル: $1/2 \times 0.113 \times 0.377 \times 1.000 \times 2 = 0.04 \text{ (m}^3\text{)}$
 型枠: $[0.113 \times 1.000 + 1/2 \times 0.113 \times 0.377 \times 2] \times 2 = 0.3 \text{ (m}^2\text{)}$



調整用無収縮モルタル
 チッピング: $(0.522 \times 0.200) \times 1.000 \times 2 = 1.4 \text{ (m}^2\text{)}$
 無収縮モルタル: $1/2 \times 0.129 \times 0.430 \times 1.000 \times 2 = 0.06 \text{ (m}^3\text{)}$
 型枠: $[0.129 \times 1.000 + 1/2 \times 0.129 \times 0.430 \times 2] \times 2 = 0.4 \text{ (m}^2\text{)}$

正面図



調整用無収縮モルタル注入
 A=0.007(m²)

調整用無収縮モルタル
 チッピング: $(0.222 \times 0.332) \times 2 \times 0.500 = 0.6 \text{ (m}^2\text{)}$
 無収縮モルタル: $(0.007 + 0.009) \times 2 \times 0.500 = 0.02 \text{ (m}^3\text{)}$
 型枠: $(0.062 + 0.205 + 0.089 + 0.315) \times 2 \times 0.500 + (0.007 + 0.009) \times 2 = 0.7 \text{ (m}^2\text{)}$

実施設計図面

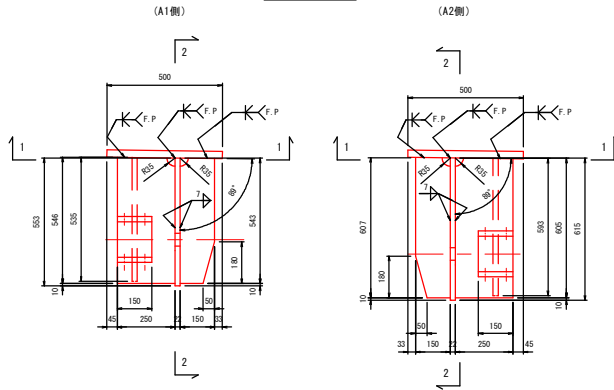
工事名	陸奥上遊小野線(半田橋)つゝ半田小野橋	陸奥県建設工事
路線名等	(一)上遊小野線(半田橋)	
工事箇所	奥馬都つるぎ町半田半小野橋	
図面名	水平力分担構造及び落橋防止構造 配置図	
縮尺	提示	図面番号 2 / 22
会社名		
事業者名	徳島県奥馬都土木建築事務所	

落橋防止構造図(その2)

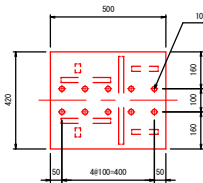
S=1:10

上部エブラケット詳細図

側面図



1-1



1基当り

(A1側)

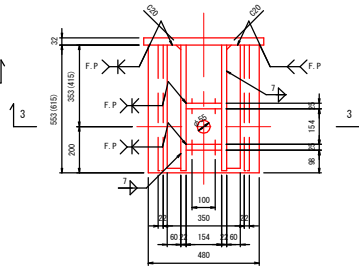
- 1-P1 500x24x400 (SM490A)
- 1-P1 380x22x553 (SM490A)
- 2-P1 250x22x546 (SM490A)
- 2-P1 150x22x543 (SM490A)
- 2-P1 60x22x535 (SM490A)
- 2-P1 154x22x150 (SM490A)
- 10-Bolt M20x110 (強度区分B.8)
- 10-Nuts (W20) 1種, 2種
- 10-Washers (W20 2枚組)

1基当り

(A2側)

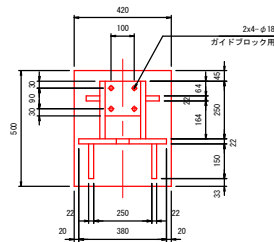
- 1-P1 500x24x400 (SM490A)
- 1-P1 380x22x615 (SM490A)
- 2-P1 250x22x605 (SM490A)
- 2-P1 150x22x607 (SM490A)
- 2-P1 60x22x593 (SM490A)
- 2-P1 154x22x150 (SM490A)
- 10-Bolt M20x110 (強度区分B.8)
- 10-Nuts (W20) 1種, 2種
- 10-Washers (W20 2枚組)

2-2



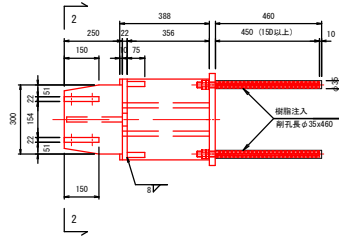
※ () の物量はA2側を示す。

3-3

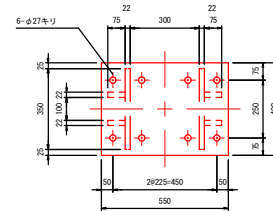


下部エブラケット詳細図

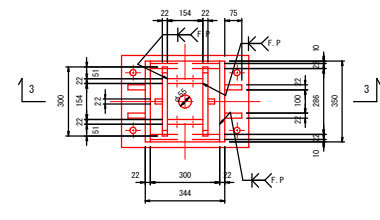
側面図



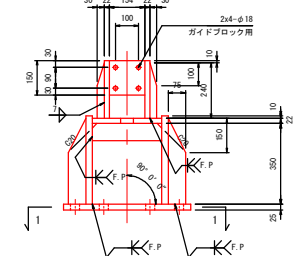
1-1



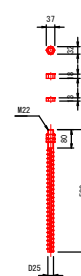
2-2



3-3



アンカーボルト・ナット



ブラケット材料 (←基当り)

- 1-P1 500x24x400 (SM490A)
- 2-P1 380x22x550 (SM490A)
- 1-P1 300x22x350 (SM490A)
- 2-P1 300x22x75 (SM490A)
- 4-P1 75x22x72 (SM490A)
- 2-P1 300x22x250 (SM490A)
- 2-P1 154x22x150 (SM490A)
- 2-P1 30x22x40 (SM490A)
- 8-Ans. Bolt 10x25x50 (SD345)
- 8-Nuts (W22) 1種, 2種
- 8-Washers (W22)

- 特記事項
1. 施工着手に先立ち、現場寸法等を確認し、製作時に鋼材の加工に反映すること。
 2. 鋼材は全て亜鉛めっき (JIS H 8641, HD255)・イオニス・スプレー (防錆表面処理剤) とする。
 3. ボルトは亜鉛めっき (JIS H 8641, HD235) とする。
 4. グルーブ溶接は完全溶け込みとする。開先形状は指定しない。

実施設計図面

工事名	陸奥上流小野線(半田橋)つゝ半田小野橋	橋脚設置補強工事
路線名等	(←)上流小野線(半田橋)	
工事箇所	奥馬都つるぎ町半田守小野橋	
図面名	落橋防止構造図(その2)	
縮尺	図示	図面番号 10 / 22
会社名		
事業者名	徳島県奥馬土佐建設事務所	

上部工耐震補強 施工手順図(案)および施工注意事項 S-1:30

【施工手順(案)】

橋台・橋脚の落橋防止システムの施工および水平力分担構造の施工においては、十分な施工手順の立案が重要となる。
次に設計段階での施工手順(案)を示す。ただし、現場では施工手順を再度確認すること。

- STEP1. 足場工(吊り足場)施工
- STEP2. 既設構造物の寸法確認および鉄筋探査を実施する。
- STEP3. 既設構造物の寸法確認および鉄筋探査の結果を反映させて、芯出し調整(旧塗膜ケレン含む)および鋼桁孔明けを施工する。
- STEP4. 鉄筋探査の結果を反映させて容量減縮構造のアンカー剛孔を行う。A1・A2橋台は無収縮モルタルにより容量面を水平に調整後、アンカー剛孔を行う。
- STEP5. 主桁補強材、容量前面プラケットを取り付けた後、水平力分担構造・落橋防止装置を取り付ける。
- STEP6. 各部材取付後、取付部材周りに残っている主桁の旧塗膜ケレン部の現場塗装を行う。
- STEP7. 足場工(吊り足場)を撤去する。
- STEP8. 完成。後片付け。

STEP1. 足場工(吊り足場)設置

STEP2. 既設構造物の寸法確認および鉄筋探査
STEP3. 芯出し調整(旧塗膜ケレン含む)、鋼桁孔明け

STEP4. 剛孔、チッピング等

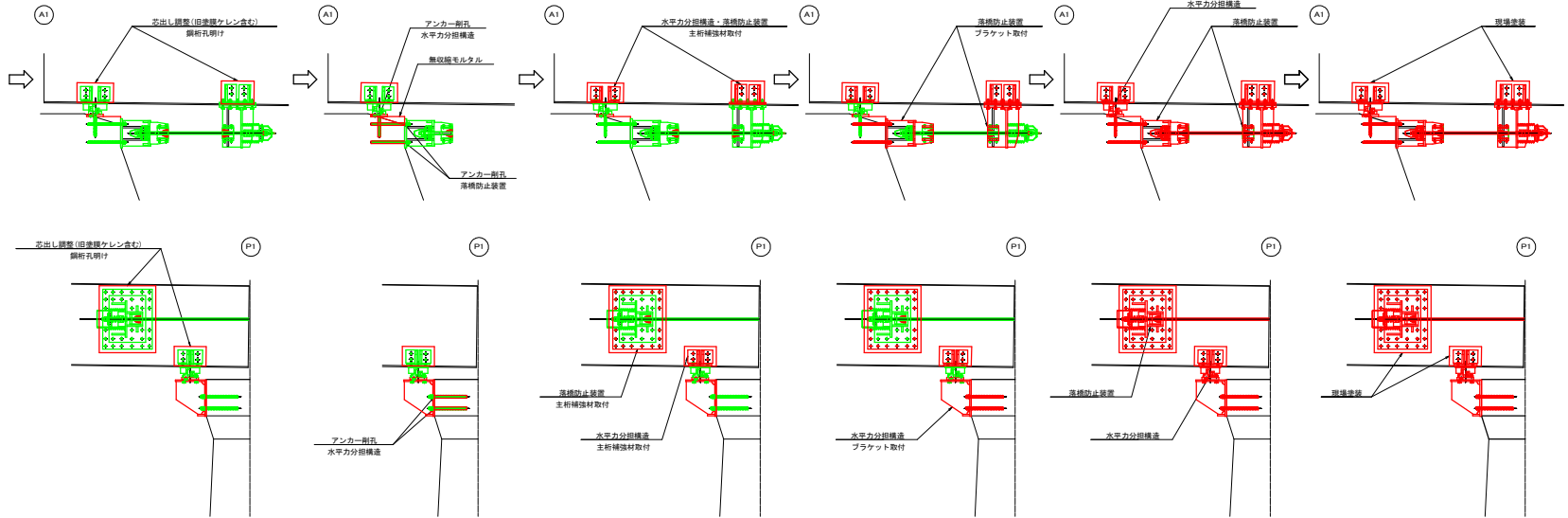
STEP5. 1主桁補強材取付

STEP5. 2容量前面プラケット取付

STEP5. 3水平力分担構造・落橋防止装置取付

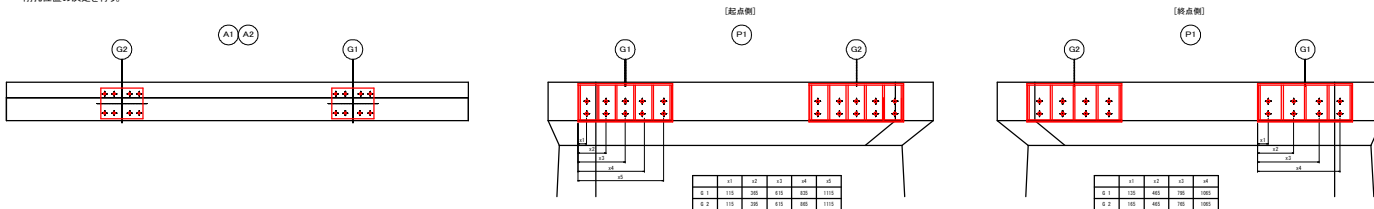
STEP6. 現場塗装
STEP7. 足場工(吊り足場)撤去
STEP8. 完成。後片付け

別図参照



■プラケットアンカー設置について

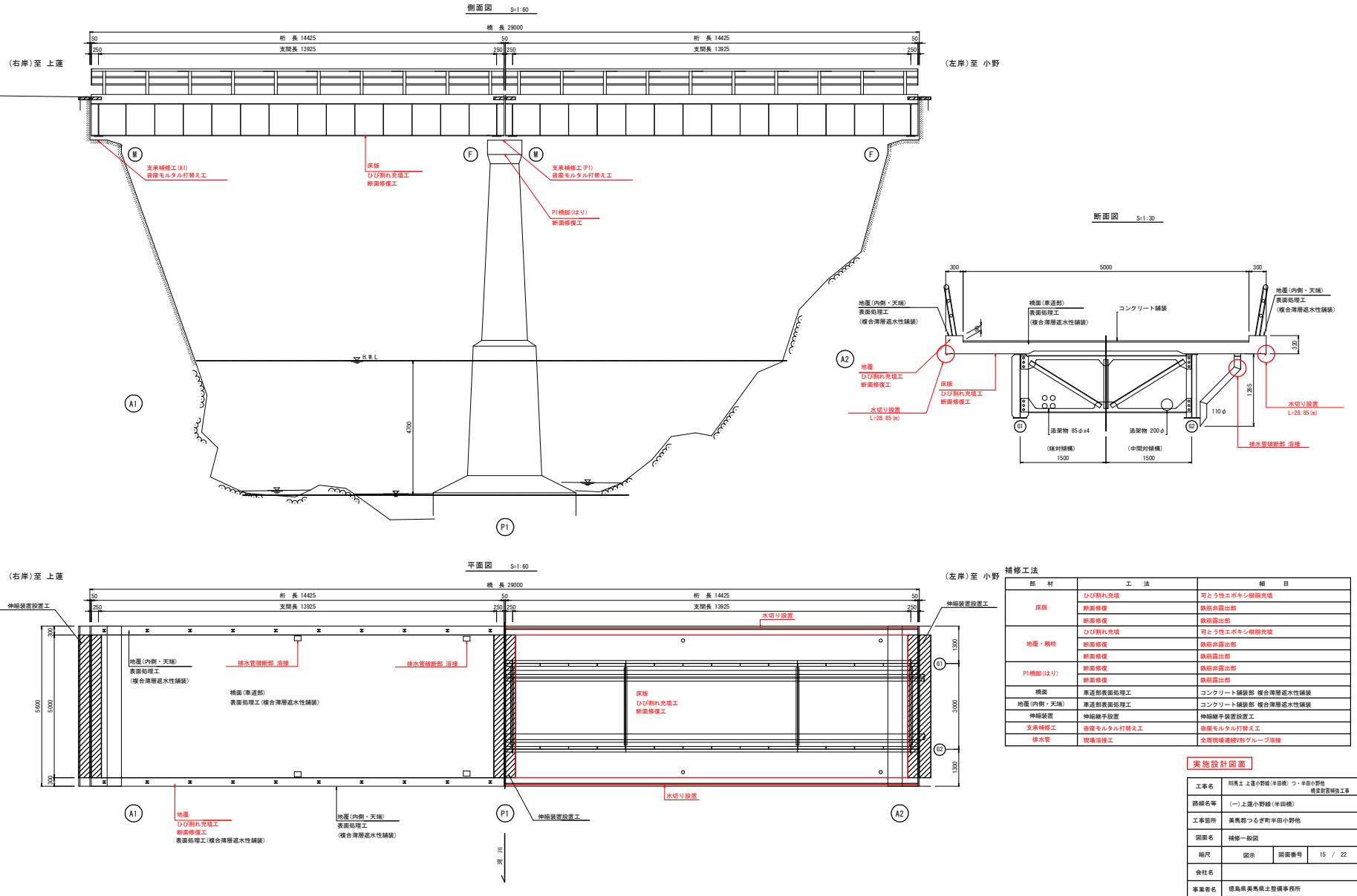
1. 剛孔前には、現場での寸法確認および鉄筋探査を実施すること。現場調査の結果を踏まえ、アンカー剛孔位置の決定を行う。



実施設計図面

工事名	福島県 上野村(半田橋) つくし半田小野地 橋脚耐震補強工事
路線名等	(一)上野小野線(半田橋)
工事箇所	福島県 つくし町半田小野地
図面名	上部工耐震補強 施工手順図(案)および施工注意事項
縮尺	図示 図面番号 14 / 22
会社名	
事業者名	福島県美里土木整備事務所

補修一般図



補修工法

部材	工法	細目
床版	ひび割れ充填	可とうエポキシ樹脂充填
	断面修復	鉄筋多露出部
	断面修復	鉄筋露出部
地盤・欄柱	ひび割れ充填	可とうエポキシ樹脂充填
	断面修復	鉄筋多露出部
	断面修復	鉄筋露出部
PI橋脚(柱)	断面修復	鉄筋多露出部
	断面修復	鉄筋露出部
	断面修復	鉄筋露出部
橋面	車道部表面処理工	コンクリート舗装部 複合弾性遮水性舗装
地盤(内側・天端)	車道部表面処理工	コンクリート舗装部 複合弾性遮水性舗装
伸縮継手設置	伸縮継手設置	伸縮継手設置
支保補修工	遊座モルタル打替え工	遊座モルタル打替え工
排水管	現場溶接工	全周現場溶接(ケループ溶接)

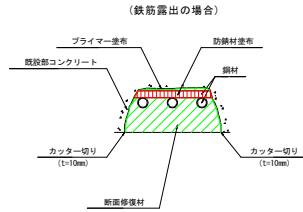
実施設計図面

工事名	群馬道上野小野線(半田橋)つ・半田小野橋 橋梁耐震補修工事		
路線名等	(一)上野小野線(半田橋)		
工事箇所	奥馬場つるぎ町半田小野橋		
図面名	補修一般図	図面番号	15 / 22
縮尺	図示	図面番号	15 / 22
会社名	徳島県奥馬場土木建設事務所		
事業者名	徳島県奥馬場土木建設事務所		

補修標準図

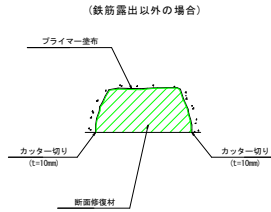
断面修復工

【断面補修材：ポリアセメントモルタル・左官工法】



- ※ 施工手順
- 1 カッター切断
 - ↓
 - 2 コンクリート削り
 - ↓
 - 3 下地処理
 - ↓
 - 4 鉄筋防錆処理
 - ↓
 - 5 プライマー塗布
 - ↓
 - 6 断面修復材こて塗り

- ※ 注記
1. 劣化、不良コンクリートの削りは、健全部に損傷を与えないよう周囲に深さ1cm程度コンクリートカッターにより切斷目地を入れ、入念に施工する。
(削り深さは5cmを想定している。)
 2. 使用材料
断面修復材
無収縮ポリアセメントモルタルとし、「表面保護工法 設計施工指針(案) [法規別マニュアル編]平成17年土木学会」に示す断面修復材の規格を満足するものとする。



- ※ 施工手順
- 1 カッター切断
 - ↓
 - 2 コンクリート削り
 - ↓
 - 3 下地処理
 - ↓
 - 4 プライマー塗布
 - ↓
 - 5 断面修復材こて塗り

力学的性能	
要求性能	設計及び施工条件
圧縮強度	躯体コンクリートと同等な強度特性を有すること
付着強度	躯体コンクリートと一体となること (1.0N/mm ² 以上)

断面修復工

補修材の要求性能

(この要求性能を参考として、同等品と認められる材料を選定するものとする)

ポリアセメントモルタルの性能例

性能性	施工方法	左官				
		普通	経塗	透膜	普通	普通
収縮性		1.8~2.2	1.3~1.6	1.8~2.1	1.5~2.2	2.1~2.2
単位容積質量 (kg/l)		120~160	110~150	120~160	140~250	~300
フロー		3~8	3~10	0.5~2	3~8	4~15
硬化時間 (h)		3h	—	3~15	—	—
圧縮強度 (N/mm ²)	材前 3h	—	—	3~15	—	—
	材前 1d	5~25	3~25	10~30	5~15	5~10
引張強度 (N/mm ²)	材前 7d	20~40	5~20	20~40	20~40	15~40
	材前 28d	25~40	10~25	25~40	30~40	25~40
付着強度 (N/mm ²)	標準	1.8~3.4	1.8~2.6	2.0~2.8	2.0~3.5	2.0~2.3
	湿潤経塗し	—	—	—	—	—
弾性係数 (N/mm ²)	16~21	12~15	13~21	14~21	17~21	—
	引張強度 (N/mm ²)	—	—	—	—	3~6
収縮率 (×10 ⁻⁶)	—	—	200~1000	—	—	—
熱膨張率 (×10 ⁻⁶ /°C)	8~17	9~13	10~15	9~17	—	—

出典：「表面保護工法 設計施工指針(案) [工種別マニュアル編]：土木学会」P.202

鉄筋コンクリート補修用防錆剤の品質基準

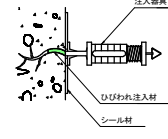
項目	基準値	
	新アルカリ性	炭酸に炭素が認められないこと
鉄筋に対する付着強さ (N/mm ²)	7.8以上	—
防せい性	処理部	防せい率：50%以上
	未処理部	防せい率：10%以上※

- ※：未処理部の防せい率は、防せい材で処理することによって、マクロセルを形成し、基材部の鉄筋腐食を促進するようなものであってはならず、比較用モルタルの発せい率とほぼ同等以下とし、発せい率で+10%以下(=防せい率-10%)以上とした。

出典：「ひびわれ調査・補修・検査指針：日本コンクリート工学会」P.132

ひびわれ補修工

【自動低圧低速注入工法】



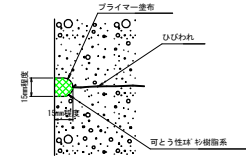
※ 施工手順

- 1 補修範囲確認
- ↓
- 2 ひびわれ部清掃
- ↓
- 3 注入器具取付け位置決め
- ↓
- 4 シール材接着
- ↓
- 5 注入
- ↓
- 6 注入器具・シール材除去・清掃

※ 注記

1. 施工前に再度施工箇所を確認すること。
2. 注入対象は、ひびわれ幅が0.2mmより大きい箇所とする。
3. ひびわれ注入深さは、60mm程度を想定しているが、注入管内の注入材が硬化する前に無くなったら補充する。
4. 注入器具の取付間隔は、300mmとする。
5. 注入材はエポキシ樹脂1種または2種を使用すること。
6. 施工の適正気温および養生方法を確認し、施工すること。
7. 著しい遊離石灰の析出が見られた場合、ディスクランダー等で除去後に補修すること。

【ひびわれ充填工法】



※ 施工手順

- 1 Uカットするひびわれは、幅1.0mm以上とする。
- ↓
- 2 Uカット部清掃
- ↓
- 3 プライマー塗布
- ↓
- 4 充填材、充填
- ↓
- 5 養生

※ 注記

1. Uカットするひびわれは、幅1.0mm以上とする。
2. 施工前にUカットするひびわれを再確認する。
3. Uカット深さは15mm程度とする。
4. 充填材は、可とう性球 彩微細系とする。
5. 施工後、硬化するまで養生を行う。

ひびわれ注入材の性能例

項目	材料の種類	
	土木補修用エポキシ樹脂注入材1種	土木補修用エポキシ樹脂注入材2種
ひびわれ進行区分	A	B
ひびわれ幅 (mm)	0.2 < 1.0	< 1.0
粘 度 (mPa・s)	1000以下	4±1
可使用時間 (分)	30以上	30以上
硬化時間 (時間)	16以内	16以内
硬化収縮 (%)	0.1以下	0.1以下
弾 性 率 (%)	50以上	50以上
モルタル付着強さ(乾状態) (N/mm ²)	6以上	6以上
付着力耐久保持率 (%)	60以上	60以上

※1：A=ひびわれが進行している。 B=ひびわれの進行が止まった。

※2：チキソトロピック係数 27pm/20mmの粘度で表す。

※3：規格に対する百分率。

※4：エポキシ樹脂注入材1種・・・ 進行が止まっている。

エポキシ樹脂注入材2種・・・ 完全に進行が止まったとは保証が得られない場合。

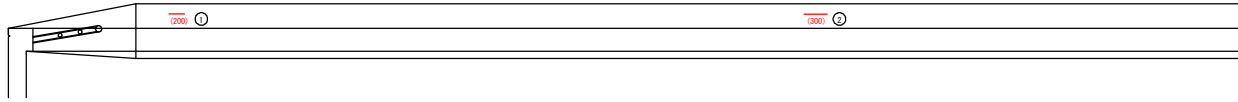
エポキシ樹脂注入材2種・・・ 進行している。

実施設計図面

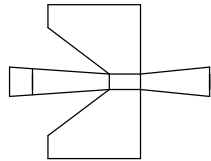
工事名	群馬 上野小野線(半田橋) 2ヶ所小野橋 橋脚基礎補修工事
路線名等	(一)上野小野線(半田橋)
工事箇所	群馬都府町上野小野橋
図面名	補修標準図
縮尺	図示 図面番号 16 / 22
会社名	
事業者名	徳島県美馬土木整備事務所

補修詳細図(1) 【第1径間 橋面】

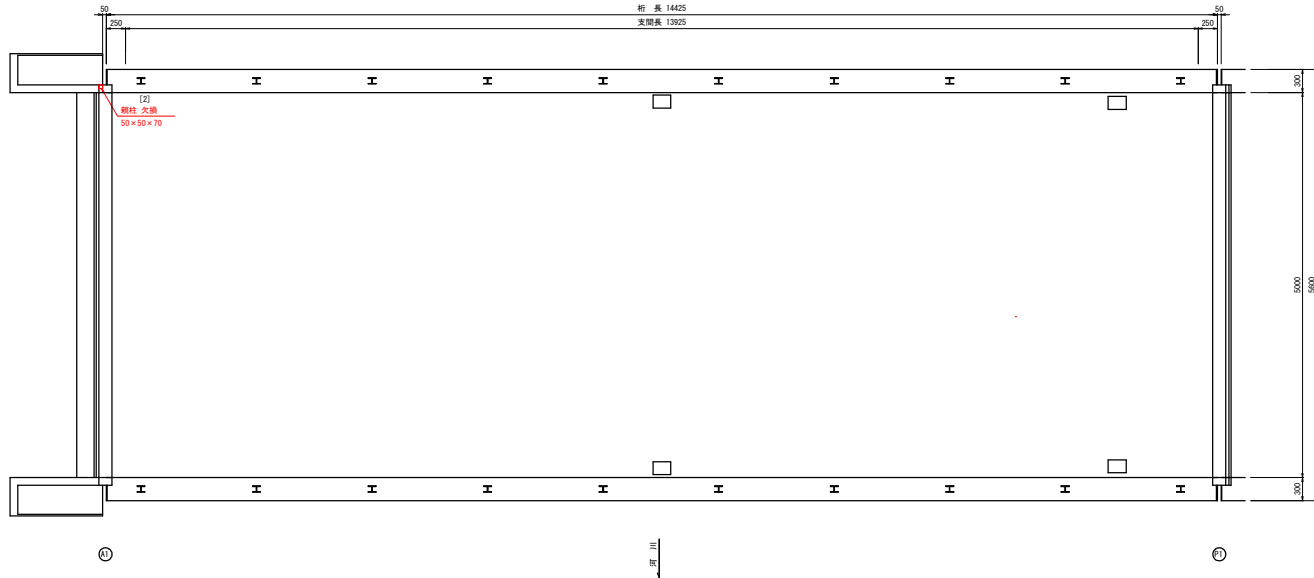
地覆展開図 S=1:30
(上流側)



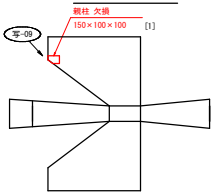
親柱展開図



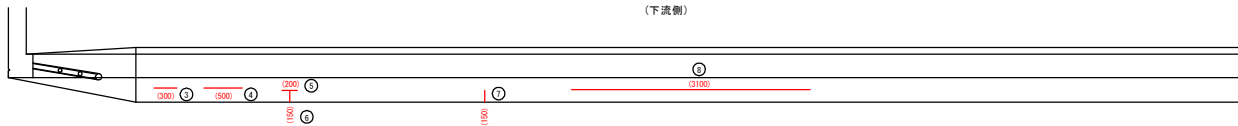
平面図 S=1:30



親柱展開図



地覆展開図 S=1:30
(下流側)

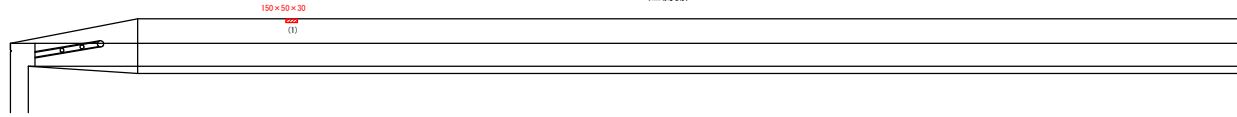


実施設計図面

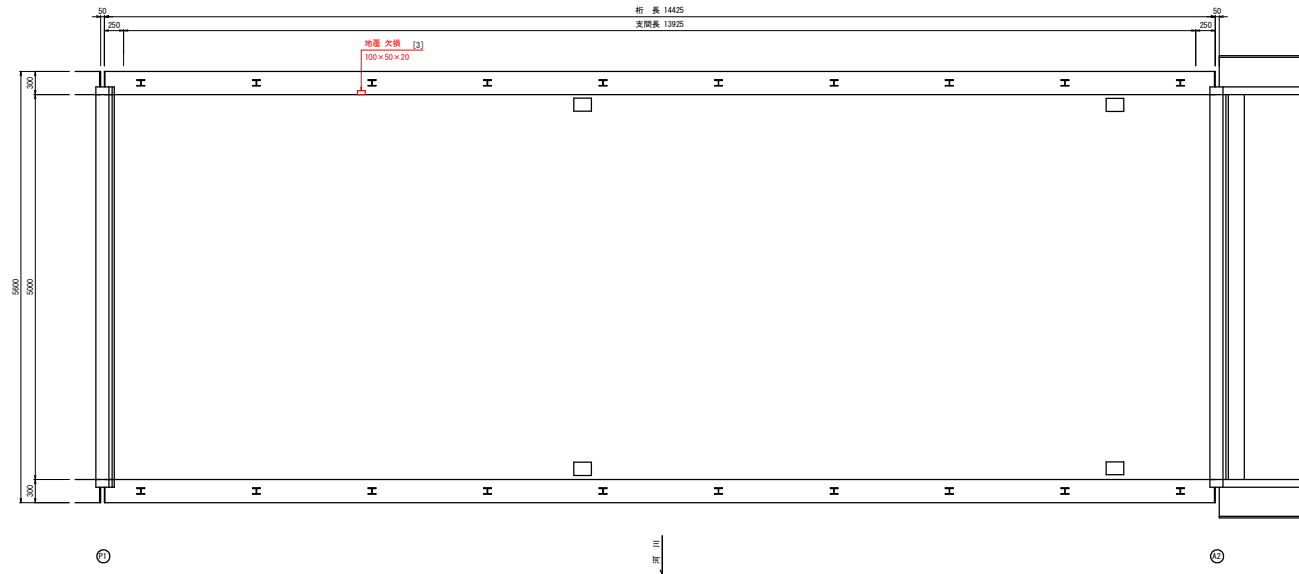
工事名			
路線名等	(-) 上野小野線(半田橋)		
工事箇所	美馬郡つるぎ町半田小野橋		
図面名	補修詳細図(1)		
縮尺	表示	図面番号	17 / 22
会社名			
事業者名	徳島県美馬県土整備事務所		

補修詳細図(2) 【第2径間 橋面】

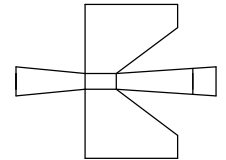
地覆展開図 S=1:30
(上流側)



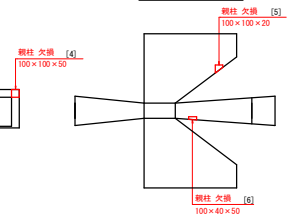
平面図 S=1:30



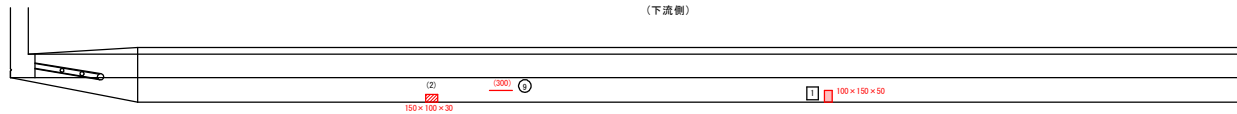
親柱展開図



親柱展開図



地覆展開図 S=1:30
(下流側)

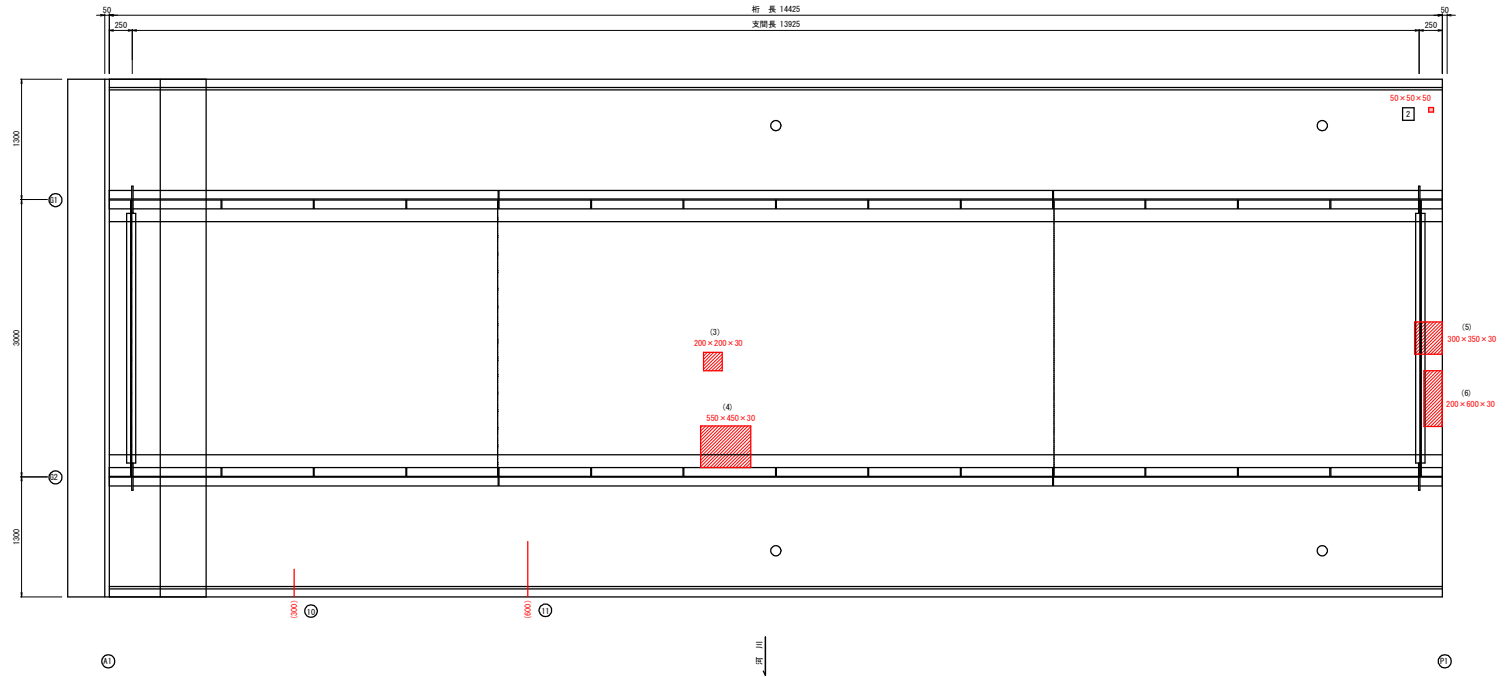


実施設計図面

工事名			
路線名等	(-) 上流小野線(半田橋)		
工事箇所	美馬郡つるぎ町半田小野橋		
図面名	補修詳細図(2)		
縮尺	表示	図面番号	18 / 22
会社名			
事業者名	徳島県美馬県土整備事務所		

補修詳細図(3)
【第1径間 床版】

桁下平面図 S=1/25



実施設計図面

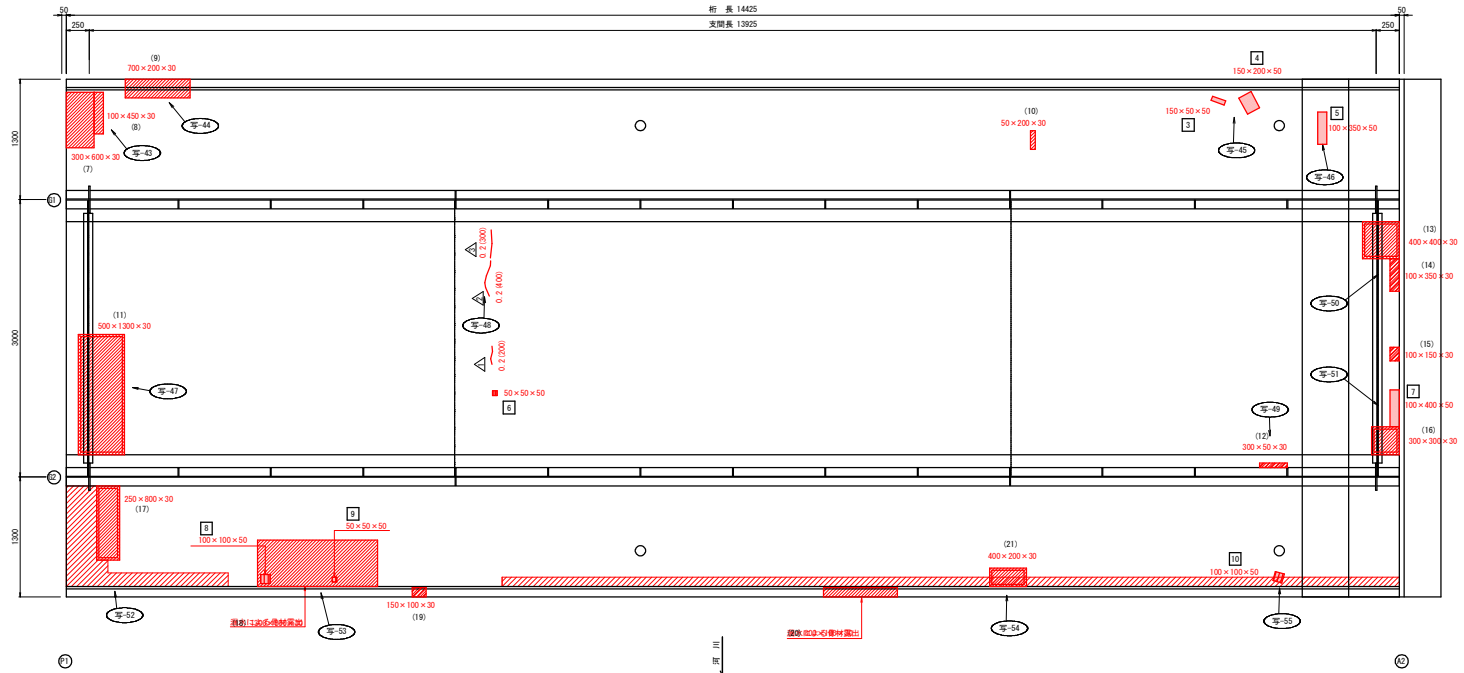
工事名			
路線名等	(-) 上野小野線(半田橋)		
工事箇所	美馬郡つるぎ町半田小野地		
図面名	補修詳細図(3)		
縮尺	表示	図面番号	19 / 22
会社名			
事業者名	徳島県美馬県土整備事務所		

補修詳細図(4) 【第2径間 床版】

-凡例-

ひびわれ	
うき	
剥離	
鉄筋露出	
漏水・漏水跡	
その他	

桁下平面図 S=1/25

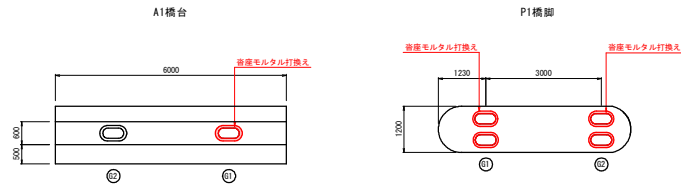


実施設計図面

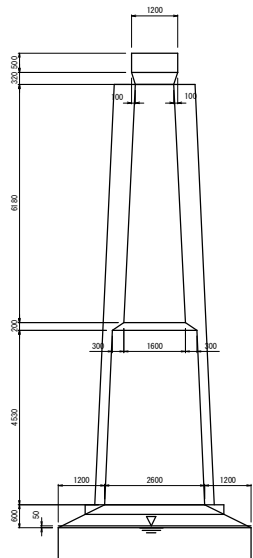
工事名	群馬土 上野小野線(半田駅) 半田小野線 橋上駅舎増築工事		
路線名等	(一) 上野小野線(半田駅)		
工事箇所	群馬都つるぎ町半田小野地		
図面名	補修詳細図(4)		
縮尺	表示	図面番号	20 / 22
会社名			
事業者名	徳島県美馬県土整備事務所		

補修詳細図(5) 【A1橋台・P1橋脚】

平面図 S-1-60



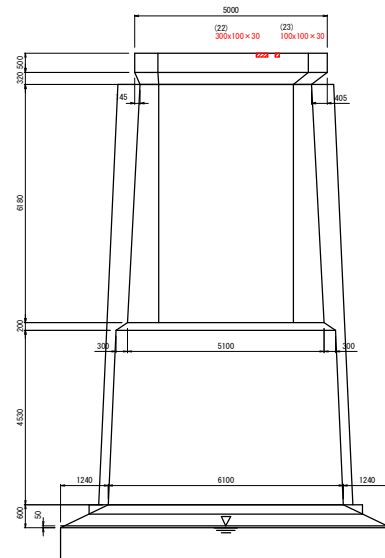
上流側側面図 S-1-60



A1橋台終点側支承詳細図 S-1-10

(可動)

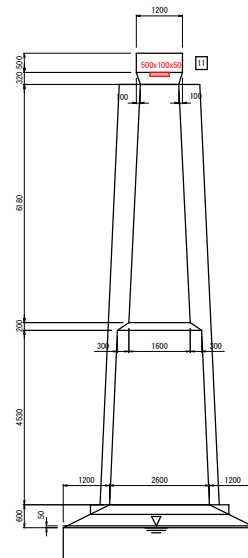
起点側正面図 S-1-60



P1橋脚起点側支承詳細図 S-1-10

(固定)

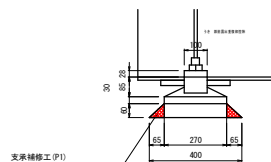
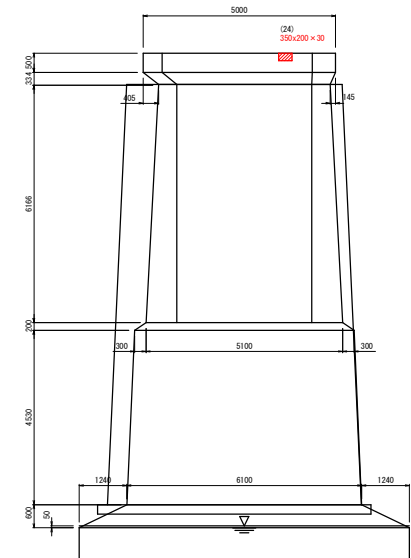
下流側側面図 S-1-60



P1橋脚終点側支承詳細図 S-1-10

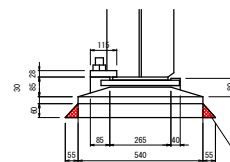
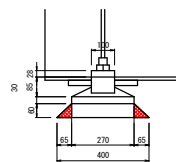
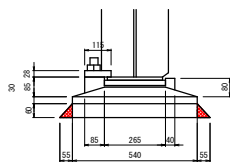
(可動)

終点側正面図 S-1-60

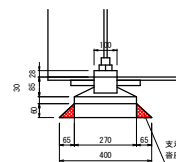


支承補修工(P1)
遊履モルタル打替え工
A=0.002h2

遊履モルタル打替え: $1/2\{(\pi \times 0.400 - 0.250 \times 2) + (\pi \times 0.270 - 0.270 \times 2)\} \times 0.002 = 0.003(\text{m})$

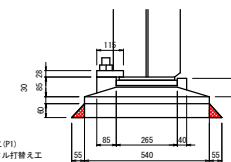


支承補修工(P1)
遊履モルタル打替え工
A=0.002h2



支承補修工(P1)
遊履モルタル打替え工
A=0.002h2

遊履モルタル打替え: $1/2\{(\pi \times 0.400 - 0.250 \times 2) + (\pi \times 0.270 - 0.270 \times 2)\} \times 0.002 = 0.003(\text{m})$



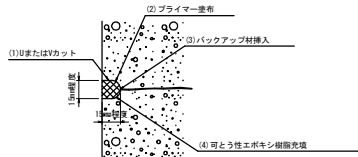
実施設計図面

工事名	群馬土 上流小野線(半田橋) 2・半田小野橋 橋脚設置補修工事
路線名等	(一)上流小野線(半田橋)
工事箇所	群馬都つるぎ町半田小野橋
図面名	補修詳細図(5)
縮尺	図示
図面番号	21 / 22
会社名	
事業名	徳島県美馬土木整備事務所

補修詳細図(6)

ひび割れ充填工要領図

[可とう性エポキシ樹脂充填工法]



充填量は下式より算出する。

$$V = 0.015 \cdot D \cdot 0.015 \cdot L \cdot 1200 \cdot 1.20$$
 ここで、
 V : 充填量
 D : 可とう性エポキシ樹脂系充填材 比重 (kg/m³)
 L : ひび割れ延長
 1.20 : ロス率

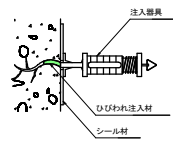
(遊離石灰)

ひびわれ充填工 数量表

番号	長さ(L) (m)	幅(B) (m)	位置
①	0.20		第1経路 地盤
②	0.30		"
③	0.30		"
④	0.50		"
⑤	0.20		"
⑥	0.15		"
⑦	0.15		"
⑧	3.10		"
⑨	0.30		第2経路 地盤
⑩	0.30		第1経路 床版
⑪	0.60		"
計	6.10	#	#=1.98kg

ひび割れ注入工要領図

[自動低圧低速注入工法]



注入量Vは下式より算出する。

$$V = 1200 \cdot b \cdot h \cdot L \cdot 1.20$$
 ここで、
 V : 注入量
 b : エポキシ樹脂系注入材比重
 h : ひび割れ幅
 L : ひび割れ長さ
 1.20 : ロス率

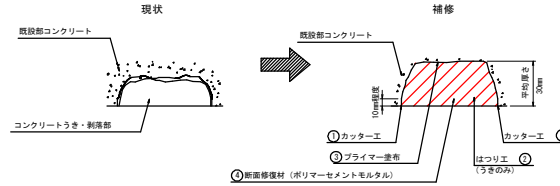
床版 ひび割れ補修工(低圧注入工法)

番号	幅(mm)	長さ(m)	深さ(m)	注入量(kg)	備考
△	0.20	0.20	0.06	0.003	床版下面
△	0.20	0.40	0.06	0.006	"
△	0.20	0.30	0.06	0.004	"
合計		0.90		0.013	

注)上表の数量(注入量)は、ロス率を加味しないである。

断面修復工要領図

[ポリマーセメントモルタル]



断面修復工(鉄筋非露出) 数量表

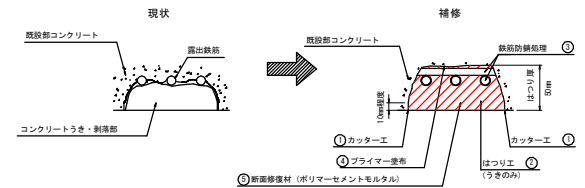
番号	長さ(L) (m)	幅(B) (m)	奥行き (m)	面積 (m ²)	体積 (m ³)	備考	位置
(1)	0.15	0.05	0.03	0.0008	0.0002	剥離	第2経路 地盤
(2)	0.15	0.10	0.03	0.0015	0.0005	剥離	"
(3)	0.20	0.20	0.03	0.0040	0.0012	凹陥	第1経路 床版
(4)	0.55	0.45	0.03	0.248	0.074	凹陥	"
(5)	0.30	0.35	0.03	0.105	0.032	うき	"
(6)	0.20	0.60	0.03	0.120	0.036	うき	"
(7)	0.30	0.60	0.03	0.180	0.054	うき	第2経路 床版
(8)	0.10	0.45	0.03	0.045	0.014	剥離	"
(9)	0.70	0.20	0.03	0.140	0.042	剥離	"
(10)	0.05	0.20	0.03	0.010	0.0003	剥離	"
(11)	0.50	1.30	0.03	0.850	0.195	うき	"
(12)	0.30	0.05	0.03	0.015	0.0005	剥離	"
(13)	0.40	0.40	0.03	0.160	0.048	うき	"
(14)	0.10	0.35	0.03	0.035	0.011	剥離	"
(15)	0.10	0.15	0.03	0.015	0.0005	剥離	"
(16)	0.30	0.30	0.03	0.090	0.027	うき	"
(17)	0.25	0.80	0.03	0.200	0.060	うき	"
(18)	1.30	0.50	0.03			骨材露出	"
(19)	0.15	0.10	0.03	0.037	0.0191	鉄筋露出量増大対策	PI補強
(20)	0.90	0.10	0.03	0.080	0.024	骨材露出	"
(21)	0.40	0.20	0.03	0.080	0.024	うき	"
(22)	0.30	0.10	0.03	0.030	0.009	表面劣化	"
(23)	0.10	0.10	0.03	0.010	0.0003	表面劣化	"
(24)	0.35	0.20	0.03	0.070	0.021	表面劣化	"
計				2.988	0.0902		

断面修復工(鉄筋非露出) 数量表

番号	長さ(L) (m)	幅(B) (m)	奥行き (m)	面積 (m ²)	体積 (m ³)	備考	位置
[1]	0.15	0.10	0.10	0.015	0.0015	欠損	第1経路 親柱
[2]	0.05	0.05	0.07	0.003	0.0002	欠損	"
[3]	0.10	0.05	0.02	0.005	0.0001	欠損	第2経路 地盤
[4]	0.10	0.10	0.05	0.010	0.0005	欠損	第2経路 親柱
[5]	0.10	0.10	0.02	0.010	0.0002	欠損	"
[6]	0.10	0.04	0.05	0.004	0.0002	欠損	"
計				0.047	0.0027		

断面修復工要領図

[ポリマーセメントモルタル]



断面修復工(鉄筋露出) 数量表

番号	長さ(L) (m)	幅(B) (m)	奥行き (m)	面積 (m ²)	体積 (m ³)	備考	位置
[1]	0.10	0.15	0.05	0.015	0.0008	鉄筋露出	第2経路 地盤
[2]	0.05	0.05	0.05	0.0025	0.0001	鉄筋露出	第1経路 床版
[3]	0.15	0.05	0.05	0.008	0.0004	鉄筋露出	第2経路 床版
[4]	0.15	0.20	0.05	0.030	0.0015	鉄筋露出	"
[5]	0.10	0.35	0.05	0.035	0.0018	鉄筋露出	"
[6]	0.05	0.05	0.05	0.0025	0.0001	鉄筋露出	"
[7]	0.10	0.40	0.05	0.040	0.0020	鉄筋露出	"
[8]	0.10	0.10	0.05	0.010	0.0005	鉄筋露出	"
[9]	0.05	0.05	0.05	0.0025	0.0001	鉄筋露出	"
[10]	0.10	0.10	0.05	0.010	0.0005	鉄筋露出	"
[11]	0.50	0.10	0.05	0.050	0.0025	鉄筋露出	PI補強
計				0.206	0.0103		

補修工法一覧

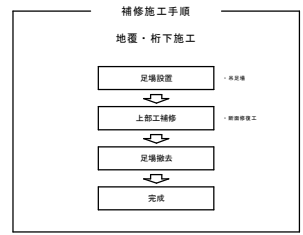
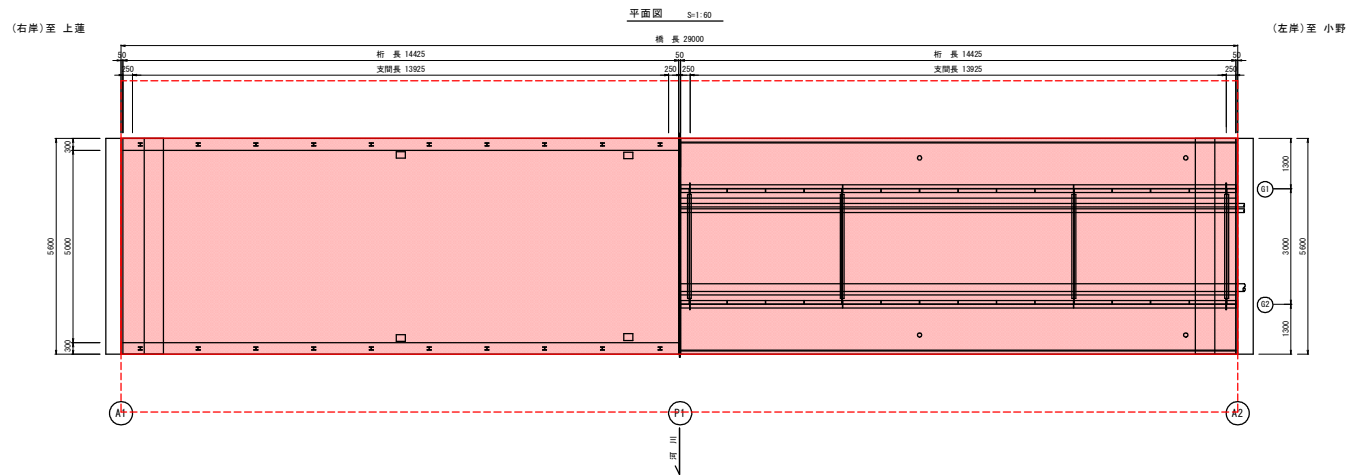
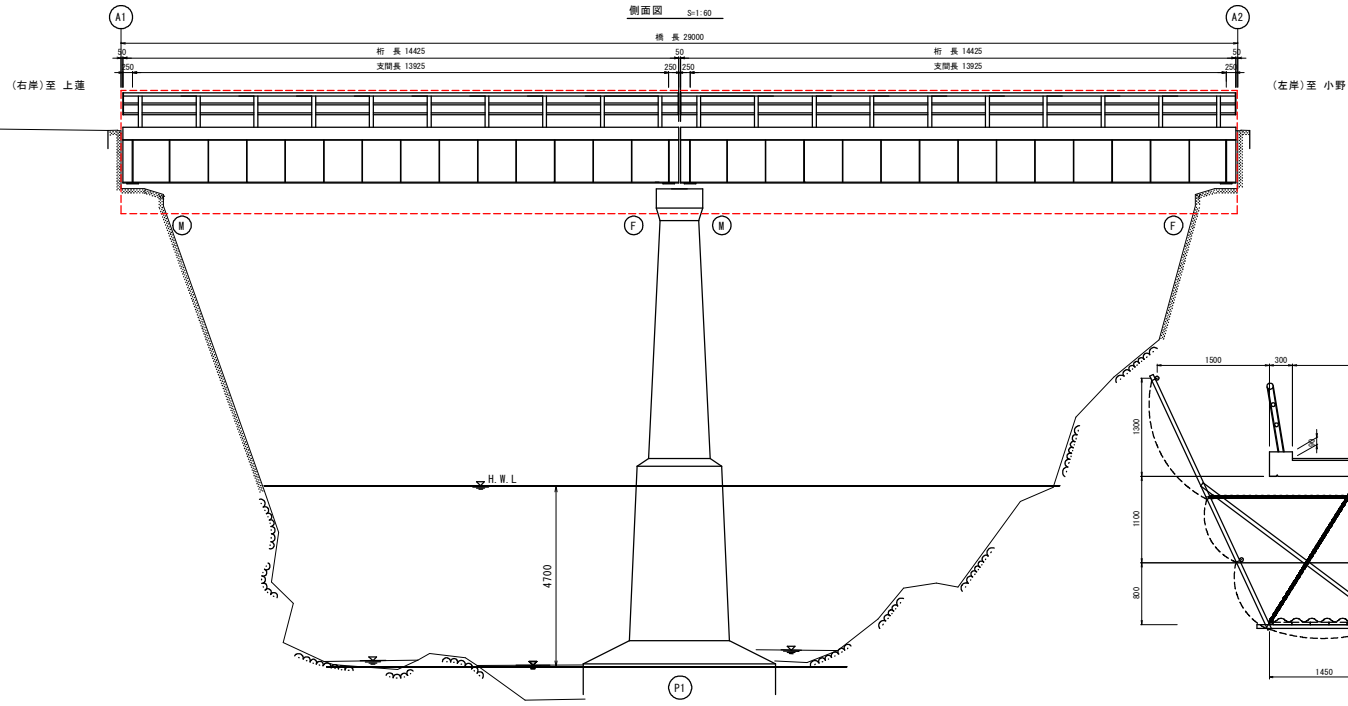
工法	種別
ひびわれ注入工	エポキシ系樹脂補修
ひびわれ充填工	可とう性エポキシ樹脂
断面修復工	ポリマーセメントモルタル

実施設計図面

工事名	結末上道小野線(半田町) 7・8号小野地 橋梁耐震補修工事
路線名等	(一)上道小野線(半田町)
工事箇所	美馬郡つるぎ町半田小野地
図面名	補修詳細図(6)
縮尺	図示 図面番号 22 / 22
会社名	
事業名	徳島県美馬県土整備事務所

※本図面は、現地計測により作成しているため、
 高精度でないことに留意すること。
 ・断面修復深さは鉄筋露出部で確認し5cmとした
 ・断面整形工はチップング処理を行うこと。

足場計画図(案)



参考図面

工事名	群馬 上野小野線(半田橋)ツ・半田小野橋 橋梁設置補修工事		
路線名等	(-)上野小野線(半田橋)		
工事箇所	群馬都つるぎ町半田小野橋		
図面名	足場計画図		
縮尺	提示	図面番号	
会社名			
事業者名	徳島県美馬県土整備事務所		